

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年6月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3470204276		
法人名	有限会社 ネクストライ		
事業所名	グループホーム きらら		
所在地 (電話番号)	〒.730-0852 広島市中区猫屋町18-11 (電話)082-293-3112		
評価機関名	社団法人 広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年6月18日	評価確定日	

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	4.4

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単</u> 独	新築 / <u>改</u> 築
建物構造	鉄腕コンクリート 造り 3階建ての 階 ~ 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(150,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性 名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 87.2歳	最低 81歳	最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	シムラ病院・さんえい診療所・広島厚生病院・原田内科神経内科クリニック・藤岡歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広島市の中心部に設置されているホームで、運営者は他に幾つかの医薬・福祉関連事業も経営しながら福祉に常に理解を持ちながら頑張っておられる様子が見えた。市街地の密集した地域の中で、ホームを運営するにはそれなりのメリットがある。それは家族との連携が密にでき、交流の場が多くある。そして、都会で暮らしに慣れると生活に活気が生まれることもあり、これが本来の目的の自立支援まで延びていくことに望んでいる様子が伺えた。
また、自然を求める外出も近隣に多くの公共施設もあり、特にには集団で喫茶店に立ち寄り多くの人達と談笑するのもりハビリへの足がかりとなっていた。このホームを都市型のモデルにしてみたいと考えた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) これまでの課題については、事業所全体で前向きに一つひとつを着実に改善している
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の勤務歴も長く、自己評価は自分たちのものとして十分理解され、行動されているようであるが、これからは外部評価を含め総合的な検討も必要である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 行政関係者の集いによる会議はある程度スムーズに進められるが、この地域のような昼夜住民の移動の多い地域区での会議の在り方見直すことが先決である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者の日常の生活費の管理については施設管理とし家族の指示に従いながら利用者の意に沿える出納が必要であると思われた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民の方々の施設案内、見学による方法とイベント開催時への参加などを併行して行うことを先ず第1弾として検討されたらどうか。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設内での理念は明示され全職員と家族はよく理解されているが、地域のなかでの理念に基づく暮らしなどは、密集地帯の施設としては今一度検討することが必要と感じられた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の取り組みとしては、先ず年間目標を制定しそれに月々の細部目標をスタッフ全員で話し合いながら実現可能な範囲で定め、提示されている。これからは、出来ることから大きく各箇所に明示することも必要である。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、学区単位での行事への参加は大都会の中での施設であるため、これらへの在り方、方向性を見出し進めて行く検討が必要ではなかろうか。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の、全職員で行うケアミーティングの場で各項目評価の意義を十分理解し、これを実践化するよう取組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営担当会議は定期的に行われているが、ホームの連絡ごとに終わるので、これから地域にどうあるべきか、また地域の方々の理解度も調べ地域の参加が中心となるまで進めて行くような努力がなされ検討中であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政関連の方は、毎回運営推進会議には出席されているようではあるが、もう少し行政からの積極的アドバイスも望んでいるようであった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	市街地の真ん中に位置しているため、現在では設けられていないが、将来的には必要ではないかという意見であった。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者、特に家族などの意見の反映については全体のミーティング(月1回)の際、必要に応じてはその都度実施されているようであった。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員へのフォローアップは質の向上の大前提と考え、職員異動等も配慮し、職場の影響は最小限に止めるよう環境づくりに当てておられる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行うミーティングには文献等参考資料も配布するなどして質の向上に務めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この項目は誰にでもあることなので、現在では必要に応じて参加させているが、この問題は職員の技術の練磨、情報の収集が少し希薄に伺えた。		ホーム自主研修は勿論のこと。外部研修にも積極的に参加し情報等の収集を行う必要が伺える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	1日体験の実施を通して本人家族、他利用者の関係など確認しながら検討して頂き納得の上、利用されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	食事作りから始まり、後始末に至るまで可能な限り共にっており、洗濯物の整理などにもできる限りの支援を得よう取り組んでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者一人ひとりの生活暦等を十分考慮しながら、その人の人格を尊重し、それぞれに合った対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者の状況は定期的に家族へ報告し、これらから得たことは意見の反映として繋がるようにしている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画は3ヶ月ごととし、このほか生活の変化に応じて早速に見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のホームの位置では、多機能性を発揮することはなかなか困難な状況にあるので、これからの在り方を検討して行かなければならないと思われる。		実績はないが、今後は柔軟に対応できるような体制を整え、地域包括支援センターなどとの話し合いを進め支援するよう検討されたらどうかと思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週往診があるほかには、訪問介護機関と契約を結んでおり、医師、看護師等とも相談できる体制は整備されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期には往診や訪問介護による、提携医療機関との協力体制が設けられ、全職員で統一した環境の中でこれに当ることとなっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は本人に見えない場所で掲載、保管しミーティングの際なども部屋の名前で呼ぶなど考慮しながら個人情報も含め、対処している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このホームでは、自分の個室には出来るだけ私物を持ち込まないようにし、自分空間を広くし、ゆとりのある生活とされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時には職員も入居者の間に入り、さりげなく食事、介助を含め声掛けをしながら一緒に楽しく食事している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は個々に任せ湯舟に入るのが嫌な場合はシャワー浴のみに行っている場合もあるが、入浴日を定め全員が入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望に応じて、人権の尊重を重視しながらそれぞれの楽しみを生かした対策、工夫がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の運動会、地域の祭りなどの時には積極的に参加している。また、年間の行事として季節に応じイベントも組まれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵をかけていない。玄関は日中鍵をかけず、警報音などを利用し職員が気を配っている。 また、デイルームが両面共で入口となっているため必ず目通しするようになっていた。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を実施している他、避難場所等についてはミーティングでその都度、再確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ病院の栄養士に献立をみてもらい、カロリーチェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	裏庭には花壇を設け、季節の変わり目には花々を植えて皆で楽しんでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人部屋で家からなじみの家具や飾りも置いてある居室もあった。大体に日常的に不要物は除き居室全体を広く明るく活用されていた。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームきらら

評価年月日 19 年 10 月 1 日

記入年月日 19 年 10 月 31 日

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 土井 隆子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	基本理念はよくみえるように明示してある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	年間目標・月目標などはスタッフ全員で話し合い決定しそれを掲示している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居時に文書にて説明をし、理念をもとめ確認の上同意を得ている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方への職員の挨拶。散歩や買い物を利用者と共に行い地域の方と交流を求めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	年2回の新聞発行の他、文化祭などで地域啓発に取り組んでいる。今後はさらに推進委員会の中で地域に知ってもらうための話し合いを取り組んでいきたい。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。			運営推進会議にて話したこともあるが、地域の方への認知症を知ってもらうための働きかけを行っていきたい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	月1回のケアミーティングで話し合い、サービス改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今後の交流への方法など月1回のケアミーティングで話し合っている		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	毎回運営推進会議の案内を行っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			管理者や職員は今後研修に行くことで、学ぶ機会を作っていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			管理者や職員は今後研修に行くことで、学ぶ機会を作っていく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書により説明し、不安や疑問にその都度応じ、理解を求めています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情投函箱を設置。その都度対応し、苦情、不満につながるものについては記録し、今後の対応を話し合っている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	行事の写真・新聞などと共に暮らしぶりや近況報告の文書を送付している		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情投函箱を設置。文書により窓口を明確に伝えている。月に一度ミーティングを行い対応策を検討し、サービス改善へとつなげている		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングを設け運営に関する職員の意見や提案を聞く機会をつくり、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	日勤者3名以上 夜勤者1名以上 確保 管理者が常に対応している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員のフォローを考え、働きやすい環境づくりを心がけている</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>月1回の定期ミーティングを行っている。各種送付資料を職員に提示している</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>			<p>グループホーム交流会などの参加をしていきたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務が続かないような勤務体制づくりや、話し合いの時間を設けストレス解消をしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>月1回のミーティング時に研修の報告をし、全職員が内容を周知しており、参加することで意欲の向上を求めている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>利用前の本人家族の希望、アセスメントを実施している</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用前の本人家族の希望、アセスメントを実施している		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時には担当ケアマネージャーや医療相談室ケアワーカーも含めて相談に応じて、様々な方向性を検討している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	1日体験を実施して本人家族、他利用者の関係など確認しながら検討している		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀しみを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にご飯を作ったり、洗濯物を畳んだりと支えあう関係作りに取り組んでいる。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀しみを共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	随時の通院の相談や運営推進会議の案内、細かいことへの相談を電話、文書により行い関係づくりをしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族からの情報はもちろんのこと、その人の過去を少しでも多く引き出せる会話づくりを心がけている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。			遠方の方が多いため実施できていないが、家族、本人から情報を得て、関係が途切れないよう会いに行くなど試みている
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の生活の中で利用者さん同士で仲むつましく話をしたり、昔の話をされたりしている。 同じ環境に入れるように声掛け、案内をしている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			実績がないが、継続的な関わりができるよう、新聞や催しの案内をしていく。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、それぞれに合った対応をしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者一人ひとりの得意な事などを把握し今まで出来なかった事が出来た時は、一緒に喜びあっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	残存能力を把握してできること、出来そうなことは進んで出来るような環境を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の状況は定期的に家族へ報告し、意見の反映へとつなげている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画は3ヶ月ごとに状態変化に応じた見直しを行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人カルテには細やかなことまで具体的に記録している。重要な点の伝え漏れが生じないように申し送り用のノートを作成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			実績はないが、今後柔軟に対応できるような体制を作っていく。地域包括支援センターとの話し合いなど
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	三年目となり、幼稚園の運動会などの参加もでき始めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	同じ敷地内に居宅介護支援事業所があり、常に密な連携を取り合っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。			ケアマネジメントの相談、協議など行われていないが、今後は地域包括支援センターと協働してケアマネジメントに取り組みたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	毎週往診がある他、訪問看護との契約を結んでおり、先生、看護師ともに相談できる環境がある。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	もともとは精神科が専門である、神経内科のドクターに診てもらい専門的見地から意見を頂いている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護との契約を結んでおり、いつでも看護師に相談できる環境がある。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連絡を取り合っ早期退院などについては話し合っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化、終末期にも往診や訪問看護と相談できる環境があり、全職員が統一した援助が可能となる。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医者、看護師から家族への説明やフォローも整っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>家族、ケアマネ、行政との連絡、連携を密にしている</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録は本人に見えない場所で、ミーティングなども部屋の名前で呼ぶなど考慮している</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者へ暖かい問いかけを行ったり、選んでもらえる環境づくりをして、入居者の好みを把握している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>			<p>なるべく入居者のペースにあわせていたいが、通院・入浴等のある日はむずかしい時もある。出来るだけ入居者のペースに合わせるよう工夫している。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に散髪に行っている。パーマ・染めも希望があればする		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も入居者の間に入り、さりげなく介助や声掛けをしながら一緒に楽しく食事している		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入浴後のビール。毎食後の煙草。希望を聞きながら食事も作る時もあり、時には外食など心がけている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。			必要な方にはトイレへの声掛けを行うが、オムツの中に出ていることが多く、パターンの把握が出来ていない
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時間は個々に任せ湯船に入るのが嫌な場合はシャワー浴のみにしている。入浴日に全員入浴している		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの部屋で自由に休息ができる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。			できるだけいろんな場面を多く作りたいたいと思っているがまだ不十分である。現在は園芸・掃除・食器洗い・洗濯物たたみはできている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分でお金を持っておられたり、そうでない方がおられ各自にあった対応をしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	町内の運動会、又祭りなどの時には見に行ったりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	墓参り、自宅へ帰る等の支援はわずかながら行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の要望に応じその都度、電話を利用できるようにしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	定期的に家族・友人の訪問がある		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	全職員が認識し身体拘束のないケアを実践している。		
66	<p>鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	居室には鍵を掛けていない。玄関は日中鍵を掛けず、警報音などを利用し職員が気を配っている。		
67	<p>利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	入居者がどこにいても何をしているのが常に把握している。食堂は皆が集まれる雰囲気作りをしている。		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	危険なものは入居者の手に届かないよう設置、保管場所を決め実行している。		
69	<p>事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	年2回は消防訓練を実施している		
70	<p>急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	マニュアルを作成、スムーズに対応できるようにしてある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練を実施している他、ミーティングでその都度、再確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時、さらに状態が変化したときにも、その都度説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員が入居者への日々の観察を徹底し、必要時には訪問看護による意見を求めている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	指示通りの服薬は実行できている。変更などは申し送りノートにて確認できるようになっている		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事は細かく刻んだりやわらかく作っている。運動は出来る限り近所の公園へ散歩にでている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、必ず声かけをし自分で出来る人は見守りながらしてもらっている。 出来ない人も洗面所まで行って介助で行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	かかりつけの病院の栄養士に献立をみてもらい、カロリーチェックをしている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	医療機関のマニュアルに基づき実行している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒を予防するための薬剤を購入し、調理器具や台所などを消毒している。食材も日付けを確認するため、文書にて管理している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	表玄関に花を植えて家庭的な雰囲気をつくっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	裏庭には花壇を作り、季節の花々を植えて楽しんでいる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂を中心に集まることが多い。ソファも廊下にセットしているため利用者さん同士で仲むつましく話をしたり、昔の話をされたりしている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は一人部屋で家からなじみの家具や飾りも置いてある		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	一日数回換気を行っている。臭いがあるときもその都度行う。 室内湿度や乾燥対策も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下も手すりがつき歩行も安全になっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	食事の支度や後片付け、施設内のかざりの作成、レクなどを通じてそれぞれの特技を生かしてもらっている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭には花壇を作り、季節の花々を植えて楽しんでいる。		